

# 「宗教」と「移動」

——在韓日本人コミュニティを中心に——

東海大学 李賢京

## 1 目的

本報告では、韓国における日本人コミュニティ形成に際して、既存の在韓日本人コミュニティと宗教コミュニティとの比較から、宗教の役割を検討することを目的とする。

朝鮮半島では 1910 年より日本の植民地支配が始まり、多くの日本人が朝鮮に移住するようになり、支配と被支配という構図の中で、朝鮮人社会とは厳格に断絶された在朝日本人社会が形成されるようになった。しかし、敗戦後、在朝日本人社会は朝鮮半島でその姿を消したが、1965 年、日韓基本条約が締結され、日韓の国交回復とともに、在韓日本人は徐々に増えていった。それに伴い、ソウルには通称「日本人村 (Japan Town)」が作られ、日本大使館や日系企業の駐在員などを中心メンバーとする「SJC (Seoul Japan Club の略称)」をはじめ、韓国各地には様々な日本人コミュニティが形成された。その特徴は、いずれも植民地経験に起因する歴史認識に対して沈黙の立場を保持し、現地社会との断絶し、「閉ざされたコミュニティ」として捉えられる。しかし、1990 年代以降に登場した「ソウル日本語ミサグループ」などの宗教的コミュニティは、これまでの日本人コミュニティとは異なり、韓国人・韓国社会と積極的に関わり、トランスナショナルなネットワークを形成しつつある。「宗教」を介することで、韓国社会との回路を作り上げた様子が見られるわけだが、「宗教」のどのような点が、作用した結果なのであろうか。

## 2 方法

本報告では、以上に示した課題に対し、在韓日本人の宗教コミュニティを対象に、日韓両国側の立場からその位置づけを捉える実態調査を行う。その上で、社会的背景（在韓日本人の移住史・日韓の歴史）から、在韓日本人コミュニティにおける宗教コミュニティの立ち位置を捉え、「宗教」を介したコミュニティ形成が、韓国社会との共生にいかに関わっているのかといった点を検討する。その際、SJC など、既存の日本人コミュニティとの比較も視野に入れ、現代在韓日本人コミュニティの現状を統合的に把握する。

## 3 結果

今日、ソウル日本語ミサグループをはじめとする在韓日本人の宗教的コミュニティは、在韓日本人を中心とした宗教的コミュニティでありながらも、日本から帰国した韓国人信者や韓国カトリック教会との交流、さらには地域住民との交流を行っている。その意味で、国交正常化以降発足した在韓日本人コミュニティとは異なった「開かれたコミュニティ」であるといえる。この点は、キリスト教が強勢である韓国社会において、キリスト教の教えを共有するという姿勢のもとに成立している行為として理解でき、日韓関係を理解する際に相互の歩み寄りのきっかけとなっている。今後、これらに在韓日本人の宗教コミュニティは、韓国社会との共生の姿勢を保持しながら、韓国社会との協働関係を構築していくと考えられる。

【付記】本報告は、科学研究費助成金（研究活動スタート支援）「共生の観点からみる在韓日本人の宗教的コミュニティに関する調査研究」（研究代表者：李賢京）の研究成果の一部である。